

「終わりよければ」いせの会 会報29

平成23年1月4日版

電話 05966・63・5226
ファクス 05966・63・5236

12月8日(水) 懇談会の記録

縁(えにし)の家 19時〜21時

出席者(10名)

1人の新しい方(女性)が参加され、男性4名、女性6名の構成でした。温かい食べ物が入れられて、忘年会と同じようなホッとする雰囲気での懇談会でした。

自己紹介から始まる懇談に加えて、今回は作成中の当会のホームページの作成者も参加され、その苦労話もお聞きしました。ちよっとシャイな方なので、そのお顔の写真は下のような方です。



ホームページをご覧になるには、下のアドレスを直接入力するか、会の名前の検索から、何とか辿り着いて下さい。

いせの会では、お話になられたこととの個人情報、この場だけのことと守秘することを心掛けています。

<http://www.amigo2.ne.jp/~homecare/>

次回の例会の予定

1月11日(火)夜 7時〜9時 ※
縁の家(いせ在宅医療クリニック隣)
気持ちも新たに、この年を語り合ってみましょう。もう1週間の先ですよ!

※12日(水)から変更しました。

「エンディングノート」も、話題に取り上げられることが増えて来ました。当会として、定例的な「書く会」の試みはどうでしょうかとの提案もあります。

12月25日(土)「降りてゆく生き方」の上映会に協力しました。午前と午後を合わせて、約60名の参加があったようです。中心になって尽力された佐久間さんに、上映会活動について、いずれお話をお願いしようと思っています。

今後の市立伊勢総合病院を考える検討会が公開されています。危機に瀕している地域医療の実情を知るためにも、傍聴可能です。

1月18日(火) 1月25日(火)
2月 8日(火) 2月22日(火)

- 19時半から、伊勢市役所本館3階にて
↓ 議事録はインターネット閲覧可能
- ① 伊勢病院ホームページ「検討会」から
 - ② 市役所ホームページの該当部へ移動

映画「楳山節考」の上映のご紹介

(青春キネマ館特別企画)

深沢七郎の小説で、今村昌平監督が映画化した記念すべき作品です(1983)。

日時 1月15日(土) 伊勢進富座

上映 18時半〜20時40分

前売り800円 当日1000円

主人公のおりんは元気に働いていたが、今年楳山参りだった。七十歳を迎えた冬には皆、楳山へ行くのが、貧しく毎日の食に事欠く村の未来を守る為の掟であり、山の神を敬う村人の最高の信心であった。山へ行くことは死を意味し、おりんの夫、利平は母親の楳山参りを前に、心労に負け行方不明となっていた。夏祭りの日、向う村から息子の辰平の後添の嫁が来た。安心したおりんは、年齢と相反した悩みの丈夫な歯を自ら石臼に打ちつけて割った。晩秋、おりんは明日は山へ行くかと告げる。夜が更け、しづる辰平を責めおりんは楳山参りの途についた。裏山を登り七谷を越えて楳山へ向う。その頂上は白骨と黒いガラスの禿げ山だ。気が付くと雪が舞っていた。別れ難い気持の辰平は猛然と山を降り「おっ母あ、雪が降ってきたよう。運がいいなあ、山へ行く日に」と叫ぶ。山に残ったおりんは黙って頷くのだった。

一人が生まれれば、一人が死に行く。人はお山参りの日まで限られた「生」を愛おしみ、気持が繋がってゆきます。これは本来の人間愛です。若いと言われる事に必死で、老いに不安な現代の高齢者は、むしろ孤独ではないでしょうか。